

大船渡港

岩手県県土整備部港湾課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

☎019-651-3111(代)

URL : <https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kouwankuukou/kouwan/index.html>



1. 概況

〈沿革〉

本港は、本県沿岸南部に位置し、明治14年に軍艦「雷電」の入港により、天然の良港であることが認められ広く紹介された。

昭和5年、内務省指定港湾となり、昭和7年に時局匡救事業、冷害対策として野々田地区において港湾修築に着手、昭和11年に水深-7.3m岸壁1バースが完成した。

一方、これと前後して、背後地への連絡の動脈である国鉄大船渡線が開通し、港勢に大きな影響を与えた。

戦後、昭和23年には大船渡港修築事業計画の策定に伴い、新たに茶屋前地区の整備に着手した。昭和30年に水深-6m岸壁、-4m岸壁が完成した。

昭和32年の東北開発関係法制定以来、本港の重要性は更に増大し、太平洋セメント(株)大船渡工場等の港湾利用が活発化した。

昭和34年、重要港湾に指定され、昭和35年には茶屋前地区に水深-9m岸壁1バースが完成し、港湾機能は一層充実された。

昭和35年5月、チリ地震津波が三陸沿岸を襲い、中でも大船渡市は大災害を被った。即刻、チリ地震津波対策特別措置法が制定され、昭和38年、津波対策事業として湾口防波堤が国直轄事業により着手され、昭和42年、我が国初の深海防波堤が完成した。

昭和43年、茶屋前地区工業団地に木工団地が建設され、昭和45年には永浜地区に木材港が完成、茶屋前地区では、昭和47年に水深-6m岸壁1バース、更に昭和50年には水深-9m岸壁1バースが完成した。また野々田地区では、昭和63年に-7.5m岸壁2バースが、平成元年には-13m岸壁1バースが完成した。

平成4年、港湾計画が改訂され、永浜・山口地区の公共ふ頭の整備が開始された。

平成19年、韓国釜山との間に岩手県初の外貿国際定期コンテナ航路が開設された。また、平成21年、永浜・山口地区では、国直轄事業の-13m岸壁1バースが完成した。

平成23年3月、東日本大震災津波が発生し、津波(湾口)防波堤は壊滅的な被害を受け、太平洋セメント(株)等の民間企業も大きな被害を受けた。

被災後、木材関係の工場は撤退したものの、その他の民間企業では迅速に工場の復旧を進め、港湾施設の復旧とともに、取扱貨物量は急速に回復し、平成25年には震災前の水

準に戻った。また、コンテナについては、外貿国際定期コンテナ航路は休止となったものの、平成25年9月に新たに国際フィーダーコンテナ定期航路が開設された。

令和2年1月には、太平洋セメント(株)大船渡工場内において、バイオマス発電所が営業運転を開始し、燃料であるパームヤシ殻(PKS)の輸入により取扱貨物量の増加が期待されている。

〈地勢〉

本港は、岩手県沿岸南部に位置し(北緯39度2分、東経141度43分)、北西に開いた湾口が屈曲し、北向に細長い湾形をなしている大船渡湾の奥部にある。湾口幅約3km、湾央部では約1km、奥行き約6kmの湾となっていることから、湾内は年中静穏である。

〈市勢〉

大船渡市は、面積323km²、人口約36,000人で、就業人口が約19,000人、内訳は第1次産業7%、第2次産業30%、第3次産業63%となっている。

市街中心地が湾奥部にあり、太平洋セメント(株)大船渡工場、(株)阿部長商店などの水産加工場が集中している。また、湾内では、カキ、ホタテなどの養殖漁業が盛んである。

〈特徴〉

湾口部は、三陸復興国立公園地域になっており、自然の造形美である国指定の名勝碁石海岸があり県内外からの観光客が多い。また、碁石海岸は三陸ジオパーク南部を代表するジオサイトの一つでもある。

毎年、日本を代表するクルーズ船が寄港しており、大船渡湾特有の風光明媚な地形や、市民の手作りによる心のこもった歓迎行事などにより、乗船客から高い評価を受けている。

東日本大震災後、三陸沿岸道路の整備などが急速に進められており、交通ネットワークの改善とともに企業の関心が高まっており、物流の増加や企業立地、また、観光等の交流人口の増加が期待されている。

〈計画〉

現在、永浜・山口地区では、-13m岸壁の整備に引き続き、-7.5m岸壁背後のふ頭用地や岸壁に接続する臨港道路の整備が進められており、隣接する小型船だまりでは静穏度を確保するための防波堤の整備が進められている。